

1:46 マリヤは言った。「わがたましいは主をあがめ、1:47 わが霊は、わが救い主なる神を喜びたたえます。1:48 主はこの卑しいはしために目を留めてくださったからです。ほんとうに、これから後、どの時代の人々も、私をしあわせ者と思うでしょう。1:49 力ある方が、私に大きなことをしてくださいました。その御名は聖く、1:50 そのあわれみは、主を恐れかしこむ者に、代々にわたって及びます。1:51 主は、御腕をもって力強いわざをなし、心の思いの高ぶっている者を追い散らし、1:52 権力ある者を王位から引き降ろされます。低い者を高く引き上げ、1:53 飢えた者を良いもので満ち足らせ、富む者を何も持たせないで追い返されました。1:54 主はそのあわれみをいつまでも忘れないで、そのしもベイスラエルをお助けになりました。1:55 私たちの父祖たち、アブラハムとその子孫に語られたとおりです。」1:56 マリヤは三か月ほどエリサベツと暮らして、家に帰った。

## 導入

2週間前に、ルカの福音書から最初のクリスマスをテーマに3回シリーズのメッセージを始めました。第一回目のルカ 1 : 26-45 からは、次のようなことを学びました。

御使いガブリエルがマリヤに現れ、このとき格別な神の恵みがマリヤに注がれたと告げました。

マリヤは特別な子を産みます。生まれてくるのは男の子で、イエスと名付けなければなりません。

ヘブル語では、「イエシュア」です。

この赤ちゃんが生まれる目的は、全世界に救いをもたらすことでした。

これは、ユダヤ民族だけに向けられたメッセージではありません。この救いは、全世界の人々に提供されるものでした。

この赤ちゃんは「いと高き方の子」と呼ばれる、と御使いは言いました。

ヘブル語の単語の意味は、「独自」であり、人々が拝む他の神々とはまったく違うという意味です。

その子は大きくなって、永遠の王国の王になるお方です。

マリヤは御使いの言葉を信じましたが、どのようにしてそれが実現するのかと問いかけました。彼女は処女だったからです。

御使いは、神の聖霊が彼女に臨み、胎内に子が宿ると言いました。

処女受胎はクリスマス話には欠かせない重要ポイントです。というのも、男性の種によってこの世に生まれた人はすべて罪の性質をもって生まれてくるからです。

マリヤは処女でなければなりませんでした。そして、神の聖霊が超自然的な方法でマリヤの胎内にイエス・キリストを宿らせる、ということが起こらなければなりませんでした。

そういうわけで、二週間前のメッセージのタイトルは、「不可能を可能にする神」でした。

マリヤは、御使いガブリエルのことばに従い、すぐに親類のエリサベツを訪ねました。エリサベツはずっと不妊だったのに、そのときは老齢で妊娠中でした。

エリサベツを訪問中に、マリヤは御使いガブリエルとの出会いが夢ではなく現実だったとエリサベツから確信を得て、励まされます。

マリヤはこれらの出来事への応答として、歌を歌い始めます。

自分の置かれた状況を大いに喜び、賛美の歌で神をたたえようとしたのです。

この歌は、非常に革新的な内容なので、最初にインド宣教に出かけた宣教師たちは、この歌を公衆の場で読むではいけないと言われました。

そこで、今日のメッセージは、「革命の歌」というタイトルにしました。

なぜこの歌はそれほど革新的なのでしょう。

それは、神についての真理や、神の御子イエス・キリストのいのちと人生をとおして神が何をなさろうとしているのかを教えてくださいます。

革命家とは、この世をより良い場所に変えようとする人です。

この世を変えるには、この世に生きる人々の心を変えるしかありません。

しかし、全世界の歴史を見ても、人類の罪深い心を変えるのに成功した人はいません。

唯一、イエス・キリストだけが、聖霊の力をとおして人の心を変えることがおできになります。

私たちが自らの人生を神にゆだねるときに、イエスのように生きられるようになるのは神の聖霊の助けがあってこそです。

マリヤが歌をとおして伝えるメッセージを聞くと、人々の反応は、腹を立てるか、無視するか、神のもとに出て救いを求めるか、に分かれます。

マリヤの歌は、ラテン語の「たたえる」という単語から、マグニフィカトと呼ばれます。ここには、多くの旧約聖書の引用が含まれています。

マリヤはユダヤ人の少女でしたから、まじめにみことばを暗誦していたでしょう。

ですから、みことばをいくつも覚えていたので、心から歌うべきときが訪れると、みことばがあふれ出たのでしょう。

年齢に関わらず、すべてのクリスチャンにとってみことばの暗誦はとても大切です。

一度覚えてしまうと、それは一生頭に入っています。

その覚えたみことばを神があらゆる方法で用いてくださいます。私たち自身のために、そして、神の聖霊が語りたくと望まれる周囲の人たちのために用いられます。

詩篇 119 : 11 は語ります。

「あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。」

マリヤの歌は、サムエル第一 2 : 1-10 でハンナが歌った賛美と似ています。

マグニフィカトは、世界一革命的な文書だと言う人もいます。

マリヤのこの歌は、神の革命について私たちに教えてくれます。

## 1. 道徳的革命 (51 節)

1:51 …心の思いの高ぶっている者を追い散らし、

プライドは大きな力を持っています。プライドがじゃまをしてクリスチャンになれない人がたくさんいます。

プライド自体は、目に見えるものではありません、それは、人の心の奥底にあるからです。けれども、プライドが人の行動に与える影響を目にすることはできます。

ここで、「高ぶっている」と訳されたギリシャ語の単語は、道徳的に他の人よりもすぐれているように見えることを意味します。そして、たいていの場合、神への反抗心と関連しています。

では、なぜ神は、心の思いの高ぶっている者を追い散らされるのでしょうか。

心の思いが高ぶっている、つまりプライドが高いと神に見なされる人には、ふたつのタイプがあります。

まず、自分には神など必要ないと考える人です。

このタイプの人たちは、自分の思いどおりに生きることで満足しています。自分を造ってくれた創造主がいて、そのお方が自分の人生の所有者だなどは考えません。また、生きる意味や、死後どうなるかといったことも考えません。

神の助けなどいらないと言うことや、神の存在を認めないことは、高ぶった心、つまりプライドの現れです。

ですから、神はその人たちを追い散らし、その人たちが望むとおり神と無縁の生活を送るようになさるのです。

神は誰にもご自身を無理強いなさいません。

もうひとつのタイプは、道徳的に良い人たちです。人殺しのような重罪は犯しません。そして、たまにってしまう小さな悪は、良い行いによって相殺されると考えます。また、他の人たちに比べることで自分を判断します。

残念ながら、このタイプの人たちは聖なる神に照らして自分を判断することをしません。罪深い人類に比べることで自分の善悪を判断するのです。

もちろん、大きな過ちを犯してしまった人に比べれば、その人たちは良い人でしょう。

しかし神は、その非常に「良い人たち」にも、あなたの心にはプライドがあるとおっしゃいます。

というのも、罪の性質を持っていることや、自分の生き方が神の怒りに触れるものであることを認めようとしなからず。

そのような人たちに対して、神はみことばから語られます。すべての罪は神に対するものである、神は人を 100% 聖なるものとしてお造りになったのだから、と。

私たち自身が気づかなくても、神は私たちの高ぶった心をご覧になります。

イエス・キリスト、聖霊、御父、という創造主なる神と向き合っ初めて、私たちは自分の心が傲慢であることをはっきりと知るようになります。

偉大な預言者イザヤは、顔と顔とを合わせるようにして神と出会い、自分の心が神の聖さとは程遠いことを思い知りました。

#### イザヤ書 6 : 1-13

6:1 ウ ज्या王が死んだ年に、私は、高くあげられた王座に座しておられる主を見た。そのすそは神殿に満ち、6:2 セラフィムがその上に立っていた。彼らはそれぞれ六つの翼があり、おのおのその二つで顔をおおい、二つで両足をおおい、二つで飛んでおり、6:3 互いに呼びかわして言っていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の【主】。その栄光は全地に満ち。」6:4 その叫ぶ者の声のために、敷居の基はゆるぎ、宮は煙で満たされた。6:5 そこで、私は言った。「ああ。私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた者で、くちびるの汚れた民の間に住んでいる。しかも万軍の【主】である王を、この目で見たのだから。」6:6 すると、私のもとに、セラフィムのひとりが飛んで来たが、その手には、祭壇の上から火ばさみで取った燃えさかる炭があった。6:7 彼は、私の口に触れて言った。「見よ。これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの不義は取り去られ、あなたの罪も贖われた。」6:8 私は、「だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう」と言っておられる主の声を聞いたので、言った。「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」6:9 すると仰せられた。「行って、この民に言え。『聞き続けよ。だが悟るな。見続けよ。だが知るな。』」6:10 この民の心を肥え鈍らせ、その耳を遠くし、その目を堅く閉ざせ。自分の目で見ず、自分の耳で聞かず、自分の心で悟らず、立ち返っていやされることのないように。」6:11 私が「主よ、いつまでですか」と言うと、主は仰せられた。「町々は荒れ果てて、住む者がなく、家々も人がいなくなり、土地も滅んで荒れ果て、6:12 【主】が人を遠くに移し、国の中に捨てられた所がふえるまで。6:13 そこにはなお、十分の一が残るが、それもまた、焼き払われる。レベンの木や樅の木が切り倒されるときのように。しかし、その中に切り株がある。聖なるすえこそ、その切り株。」

イスラエルの民は傲慢になっていたもので、神は彼らを追い散らされました。「聖なる切り株」を除いて何も残らないほどに追い散らされました。「聖なる切り株」とは、民を再建するために神がお使いになれる数少ない人々のことです。

心の思いの高ぶっている者を神が追い散らさなければならないのは、何とも悲しいことです。

皆さんにお聞きします。あなたの心は高ぶっていませんか。

私にはイエスなど要らないと言っていますか。

聖書の神が私の創造主とは認めたくないと思いませんか。

もしそうなら、神はあなたの生きたいように生かされるでしょう。

神を認めながら、自分の好きなように生きようと思うなら、神はそうさせてくださるでしょう。

けれども、いつか死んでこの世を去る日に、天国に入るのに十分な善を積んではいなかったと、大きな衝撃を受けることとなります。

イエスをとおして与えられる罪の赦しを拒んだからです。

マリヤの言葉は革命的でしたが、その言葉は、神のご性質に合致します。

#### ヨハネ第一 2 : 15-17

2:15 世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。2:16 すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。

2:17 世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行う者は、いつまでもながらえます。

神の愛と「プライド」は、私たちの心で共存できません。

テモテは、新しく信徒になった人が指導者になるのは好ましくないと警告しました。それは、人がクリスチャンになってからプライドを消し去るのに時間がかかるからです。

プライドは大きな力を持っているので、神の聖霊によって消し去っていただく必要があります。

プライドを克服するのは並大抵のことではないので、弟子作りの親は、生徒たちの日常にあるプライドの問題を取り扱っていく必要があります。

ダビデは詩篇で、傲慢な心に戻ってしまう可能性について自らを戒めます。

詩篇 36:11 高ぶりの足が私に追いつかず、悪者の手が私を追いやらないようにしてください。

神がプライドを望まれないことを、マリヤは知っていました。  
マリヤは十代の少女でしたが、大人よりも多くの知恵がありました。

## 2. 社会的革命 (52 節)

マリヤは道徳的革命から次に社会的革命に言及します。

私たちが生きる世界は常に、裕福な人や王たちが力や権力を握っています。ですから、そのような権力者がすべての状況をコントロールしているように思えます。

また、たいいていの場合、貧しい人たちはしいたげられていたり、不当な扱いを受けていたり、十分な配慮を受けていません。それは、必要なものを手に入れるお金がないからです。

これはたいへん悲しいことですが、神は、そのような問題に対する解決策をお持ちです。

私たちの祈りに応えて、神は権力者を王座から降ろし、貧しく卑しい身分の人々を引き上げることがおできになります。

このようなことをする力をお持ちなのは神だけです。

英国の歴史について、お話しましょう。

英国で、神はご自身の民を用いてこのみことばを成就してくださいました。

紀元 871 年、アルフレッドはウェセックスの王に即位しました。当時、英国沿岸にはスカンジナビアからの海賊船が侵攻してきて、人々を殺し、盗みを働き、家々を焼き払いました。

そこで、神は力ある者を引き降ろすためにこの人を立ち上がらせてくださいました。

アルフレッドは、英国で唯一、「大王」という称号を得た人です。

アルフレッドは、町に要塞を建て、最終的には海賊たちの侵攻をせき止めました。

アルフレッド大王は、正直さ、忠誠心、そして命の尊さを大切にしていました。

大王は、自身の律法書の冒頭に十戒を記し、十戒もすべての律法も主イエス・キリストの愛と受難に照らして理解しなければならないと示しました。

大王はこのような言葉を残しています。

「私は、生き甲斐のある人生を送ろうと務めてきた。後世の人々に、良い働きの模範を残すことを願っている。」

かつて、キリスト教が英国の国を形成しました。

そして、100 年以上の間、クリスチャンは英国のために多くの功績を残しました。

貧しい子どもたちのための学校や病院を設立し、聖書や福音を人々に教え、病に苦しむ人々を助けるために医療の分野で多くの発見をし、ホスピスや保護観察制度の導入をしました。これ以外にも、今でも残る多くの団体はクリスチャンが始めたものです。

実際、この世にとって良いものの多くは、マリヤの言葉が成就するために神がご自身の民をとおして働いてくださった結果と言えます。

そうです。神は確かに、権力者を引き降ろし、低い者を高く上げてくださいます。

神は今もそのために働いておられます。

もしかすると、皆さんをとおして、その業を成就しようとしておられるかもしれません。

では最後に 53 節から 3 つめの「革命」です。

## 3. 経済的革命 (53 節)

ルカ 1:53 飢えた者を良いもので満ち足らせ、富む者を何も持たせないで追い返されました。

ノンクリスチャンの社会では、皆できるだけ自分の得になるように生き、財産を増やそうとします。真のクリスチャン社会では、困っている人、貧しい人たちと富を分かち合おうという精神をひとりひとりが持ちます。

世間の多くの人にとって、これは経済的革命です。

アメリカのある貧しい家庭の証によって、今となつては米国だけでなく世界中で名を知られる人が改心しました。

その人の名はリー・ストロベルです。彼はキリスト教信仰について多くの書物を著した人物で、私たちの書棚にもいくつかその書物があります。

ストロベル氏はもともと、シカゴの有名な新聞社の記者でした。

ある年のクリスマス時季に、彼は取材でシカゴに住む家庭を訪れました。

それは非常に貧しい家庭でした。

その家族は、何も持っていないくともとても幸せそうでした。

アメリカでは貧しい家庭でも、クリスマスにはツリーの下に家族のためのプレゼントがたくさん並びますが、この家族には何のプレゼントもありませんでした。

この家族はクリスチャンで、自分たちの信仰についてストロベル氏に話しました。

キリスト教の話に心は動きませんでした。クリスマスにプレゼントも何もないのに幸せそうなこの家族について記事を書くことにしました。

ストロベル氏が次にこの家庭を訪れると、そこにはプレゼントが山ほど届いていました。

ストロベル氏の記事を読んだ人たちが心を動かされ、この家族にクリスマスプレゼントを贈ってくれたのです。

彼は、自分の記事が功を奏したと喜びました。

しかし、この家族がプレゼントを開けてはもう一度包み直しているのに気付きました。

なぜそんなことをするのかとストロベル氏が尋ねると、その家族の人は、もらったものの9割はまた別の人たちにあげるのだと答えました。

「他にもたくさん困っている人がいるのに、こんなにたくさんものを自分たちだけでひとり占めできない」と言いました。

ストロベル氏は感動しました。そして、後にクリスチャンになりました。

本物のクリスチャンが実践していた経済的革命が、彼の心を動かしたのです。

クリスチャンがあるべき姿で生きると、それは革命的に見えるでしょう。そして、未信者の人たちに大きなインパクトを与える可能性があります。

この個所は、霊的な貧しさにも当てはめることができます。自らを霊的に富んでいると考え、神から何も必要としない人たちのことです。

みことばをとおして神にたましいを養っていただく必要性を認めるなら、神はまさにその業をなしてくださいませ。

一方、神のみことばもたましいの食物も要らないという人には、神から何も得られません。つまり、何も持たずに追い返されるのです。

マリヤはこの歌の最後に、イスラエルの民がアブラハムの子孫として生まれたときから、神はずっと民を助けてこられたと締めくくります。

神はアブラハムとその家族を世界への証人として選ばれました。

残念ながら、ユダヤ人は神に望まれるような証人でなかったときもあります。

それでも、神は常に彼らの必要を満たし、神に従う者に対する祝福の約束を守ってこられました。

創世記 12：1-3 で、神が初めてアブラハムに語られたとき、神はアブラハムの子孫から大いなる国民を生み、その民を祝福すると約束なさいました。

そして、イスラエルを支援する人々を祝福し、イスラエルに敵対する人々を呪うと約束されました。

#### 創世記 12：1-3

12:1 【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。 12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。 12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

この約束は今も有効です。

神ご自身が、神の選ばれた民をつねに尊び、神の民を支援する人々を祝福してこられました。

イスラエルの科学やあらゆる専門技術が世界中で求められるのは当然です。

超大国アメリカでさえ、先端技術におけるサポートや支援をイスラエルに求めます。

イスラエルの最新の発明をすべてここで挙げることはできませんが、ひとつだけ紹介したいと思います。

それは「ピルカム」です。

消化管内の画像を収集できるカプセル型内視鏡を発明したのはイスラエルです。

このカプセルの中に、小型カメラが内蔵されていて、臓器内の画像を記録するのです。

これは、人命を救えるすばらしい発明です。

私自身は、衛星ナビにずいぶんお世話になっています。ナビがなければ、車で大阪のいろいろな場所に行くことはできないでしょう。

イスラエルへの敵対が世界中にあっても、神は確かにご自身の民イスラエルを大いに祝福してくださっています。

## 適用

では、今日のみことばの教えから、私たちクリスチャンの日常生活に応用できることは何でしょう。

1. クリスチャンにとって、よみがえりの主イエスによる召しに従い、正しくクリスチャン生活を送るなら、それは非常に革命的な生き方となります。  
たいていのノンクリスチャンの人々のライフスタイルとはまったく違った生き方になります。

イエスの役立つしもべとなるには、神を重んじることに徹底した生き方をしなければなりません。

私たちをとおしてイエスを人々に示すためには、言行一致の歩みをする必要があります。

真剣に弟子となるためにイエスの教えに従うのは簡単なことではありません。しかし、それが私たちに与えられた召しです。

来年1月1日から、私たちは弟子作りのプログラムを始めます。2017年にイエスが教えようとしておられることを最大限に受け取るため、神の備えてくださったご計画に心と思いを開きましょう。

エペ2:10 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。

2. まだクリスチャンでない人は、聖書が神とイエス・キリストについて語る内容について考えてみてはいかがでしょうか。

生きているうちに、救いのメッセージについて考える必要があります。

イエスは救い主としてこの世に来られました。

そして、革命的な生き方をし、多くの奇跡をとおしてご自身が人の姿をして来られた神だと証明されました。ついには、惨たらしい死を遂げて、私たちの罪の罰を代わりに負っていただきました。

「クリスマスの本当の意味」についてどうか考えてください。

それは、世間で祝われているクリスマスとはまったく違うクリスマスです。

イエス拔きのクリスマスは、クリスマスを祝う本当の意味を失っています。

このクリスマス、イエスについて考えるお手伝いをする冊子を用意していますので、ご自由にお持ち帰りください。